

ウイルスと人の関わり ～温故知新で新型コロナの未来を考える～

古瀬 祐気 (京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 特定助教)

新型コロナウイルス感染症が世界中で流行しているいま、その流行を抑えるべくさまざまな対策が各国で取られています。「対策を行わないと死亡者が40万人でしてしまうかもしれない」「流行をおさえるためには、接触を8割減らす必要がある」「ワクチンができるまで、対策によって流行のピークを遅らせよう」、どれも科学的な予測にもとづいた重要なメッセージだと思います。でも、みなさんはその“一歩先”を考えたことはありますか？「40万人が死んだとして、それ以上は亡くならないのでしょうか？」「流行がおさまったら、生活は元通りでいいのでしょうか？」「ワクチンができれば、新型コロナウイルスはこの世界から消えてなくなるのでしょうか？」

新型コロナウイルスが出現する以前から、人類はさまざまなウイルス感染症を経験してきました。そのときは、一体どうしたのでしょうか？そして、何が起こって“いま”に至っているのでしょうか？「？」だらけのアブストラクトで恐縮ですが、このセミナーではウイルスと人の関わりを振り返り、そこから新型コロナウイルスと私たちがたどる未来像を考えてみたいと思います。



Online Seminar Series: Seminar Series by Tohoku University WISE Programs "Create the New Normal"

[WEB] <http://www.tfc.tohoku.ac.jp/other-activities/online-seminars/2020cov.html>

1st Seminar: What is COVID-19?

[WEB] http://www.tfc.tohoku.ac.jp/online_event/2020cov/01/